

12. 国有林苗畑における線虫被害の実態調査および防除

1 試験担当者

本場保護部樹病科長：千葉 修

〃 〃 研究室：真宮靖治

関西支場保護研究室：寺下隆喜代、峰尾一彦

四国支場保護研究室：陣野好之

九州支場保護第一研究室：徳重陽山、清原友也

2 試験目的

国有林苗畑における線虫被害の実態，加害線虫の種類・生態・被害と環境との関係を明らかにし，薬剤および育苗手法による防除方法を確立する。

3 昭和43年度の経過とえられた結果

(本場)

四国支場と共同で実態調査を実施したが，他地方と同じく苗畑線虫はネグサレセンチュウが主体であることがわかった。スギ，ヒノキ，アカマツ，トドマツ等の主要樹種に接種試験を行ない，キタネグサレセンチュウの土壌，植物根中における増殖の程度を比較したが，スギ，ヒノキ>エゾ，トド，カラマツ>アカマツの3グループにわけられた。また，根の皮層内で生活し，中心柱にはほとんどはいらない。細胞の破壊は機械的なものであることがわかった。

前年までの結果は一応とりまとめのうえ林試研報220号に発表した。

(北海道)

道内の各苗畑について，トドマツ，カラマツを中心として，キタネグサレセンチュウの生息密度を生育障害について実験を行なったが，初期密度が5,000頭以上(鉢)になるとカラマツ稚苗の生育に障害を与える。立枯病菌の主なものはロゼリニア，シリンドロクラディウム，リゾクトニヤ，フザリウム等で土の容量によつて病原性が異なる。

(東北)

10カ所の苗畑の実態調査を実施するとともに，スギについて秋まき苗の薬剤防除試験を実施したが，春まきについてはNCSと5121の $m^3 50cc$ ，50g処理は防除効果が高かつた。

(関西)

前年度で管内全苗畑の調査を終了し，各種線虫の生息密度等明らかにしたが，本年度は，ネ

グサレセンチュウの被害解析の一環として、苗木掘取跡地の線虫の実態、スギまきつけ床の時期別消長と被害等調査した。

(四国)

宿毛署はじめ8署管内苗木の実態調査と俣山苗木において線虫の季節的消長、立枯病および苗木の成育との関係を調査した。

(九州)

15営林署苗木の土壌、線虫の種類と、3営林署・苗木における線虫の年間変動を調査した。

4 昭和44年度の試験計画

- 1 未調査地域における線虫実態調査
- 2 病原菌との相互作用をも含めた線虫被害の解析
- 3 薬剤による防除試験
- 4 大橋署・管内苗木でネグサレセンチュウの季節的密度変化、その他を定期的に調査する。